「目的に応じて複数の情報を比較、関連付けて読み解く力」に関する指導に重点を置いた実践研究
～４年生「広告を読みくらべよう」（東京書籍４年上）の実践より～

大阪市立太子橋小学校　栗山　功

１．はじめに

大阪市小学校教育研究会国語部では今年度から説明的な文章について研究を進めている。『令和の日本型学校教育の構築を目指して』の答申で示された「個別最適な学び」および「協働的な学び」を見据え、学びを自覚し学びを調整する学習者を育てるよう取り組んでいる。特に中学年委員会では「類別する」「理由付ける」「関係付ける」「推論する」という思考を働かせて説明文を読み「主体的・対話的で深い学び」となるような実践を目指している。本単元では授業づくりを進める上で主に「理由付ける」「関係付ける」思考を働かせることができるように学習指導計画を立てた。

私自身、ICT 機器（タブレット端末）を積極的に取り入れた単元学習を模索しているところである。国語科の各単元で目指すべき力をつけるために ICT 機器（タブレット端末）を学習のどの場面でどのように活用するか考えている。本実践は ICT 機器（タブレット端末）をどう活用するかについての挑戦といえる取り組みである。なお、大阪市国語部では「目指す子ども像」と「研究の視点」を明確にして実践研究に取り組み、次年度の研究につなげている。次に示すものは令和２年度の国語部中学年委員会の「目指す子ども像」と「研究の視点」の改訂および抜粋である。（本実践は令和５年度国語部の研究部が提案している考え方も取り入れている。）

「目指す子ども像」及び「研究の視点」

中学年の子どもにとって低学年で身に付けた知識・技能や思考力を基盤とし、学習材を読んで感動したり興味をもったりすることを大切にしながらも、高学年に向けて筋道立てて考えたり大切な言葉を意識してまとめたりする力を身に付けていくことが求められる。このような思考力を育むために学習指導要領に示されるＣ読むこと「ウ　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」につながるような実践に取り組む。また、学習材の内容や表現の良さに対する考えを自分なりにまとめ友だちや筆者の考えと比較することで、新たな気付きを得られる学習活動をイメージする。学習者にとって自分とは異なる感じ方や考え方に触れ相違点や共通点に気付いたり、よりふさわしい考えや表現を選択したりするという言語活動は高学年においてより深い学びを行うために必要な段階である。このような経験を積み重ねることで、根拠に基づいて論理的に思考・判断・表現する力を伸ばし、他者やテクストとの対話による考えの広がりを楽しみながら言葉がもつよさに気付くことができる学習者を育てることができると考える。

視　点	具　体　的　方　策
教材文分析	○気付かせたい語句や表現の吟味 ・非連続型テクスト、はじめ・なか・おわり、キーワード、原因と結果、主張と理由、具体例、順序、数値、比喩、要点、要約、比較、類別、題名に関わる語句や表現。 ○分析をふまえて育みたい読みの力の設定 ・目的を意識して中心となる語や文をとらえたり、段落相互の関係や、考えとそれを支える理由や事例との関係を考えたりしながら文章を読む力。 「類別する」「理由付ける」「関係付ける」「推論する」する力
評価	○知識・技能に関わる評価　及び　思考・判断・表現に関わる評価の方法 ・振り返り（自己評価）・成果物、文章、発話、つぶやき、表情、身体表現、図絵などから子どもが「どのような知識や技能を身に付け」「どのように活用しようとしてい

	るか」を評価する。 ○主体的に学習に取り組む態度に関わる評価の方法 ・知識・技能　及び　思考力・判断力・表現力が活用される学習過程において、主体性や自らの学習を調整する力がどのように発揮されたかを見取る。 ・振り返り（自己評価）・成果物、文章、発話、つぶやき、表情、身体表現、図絵などから総合的に子どもの学びを評価する。

本実践のキーワード

学習のゴールの明確化・理由付ける力・関係付ける力・観点ごとの比較

作り手の意図・ＴＴによる指導・目的を明確にした言語活動・振り返り

２．指導計画

単元名「たちばなフェスティバルの広告を作ろう」

～「広告を読みくらべよう」（東京書籍４年上）～

本単元で付けたい力

○２つの広告を観点ごとに整理して比較し、作り手の意図を考えながら理由付ける力

○広告作りを通して、相手を意識して写真を選択したりキャッチコピーを考えたりしたことを自分の意図と関係付けながら説明できる力

単元指導計画（全８時間）

第一次　学習の見通しをつかむ。（２時間）

【めあて】　広告について考えよう

・広告について知っていることを交流する。

・折り込みの広告を見て気付いたことを交流する。

・「作る目的」「作り手の意図」「表現の工夫」について考える。

【めあて】　学習計画を立てよう

・学習材「広告を読みくらべよう」を読む。

・指導者の作成した「たちばなフェスティバル」の広告の一部を知る。

・一人一人が「たちばなフェスティバル」の広告を作るというゴールを確認する。

第二次　広告①と広告②について観点ごとに比べる。（３時間）

【めあて】　作り手の意図から２つの広告を比べよう（その１）（その２）（その３）

・「キャッチコピー」と「選んだ写真」を比べて作り手の意図を考える。

広告①「家族」広告②「小さい子どもと母親」の理由付け

・「背景の色」を比べて作り手の意図を考える。

背景の色が広告①「ブルー」広告②「ピンク」の理由付け

・「説明の並べ方」を比べて作り手の意図を考える。

説明の順序についての理由付け

第三次　「たちばなフェスティバル」の広告を作り、交流する。（３時間）

【めあて】　広告を作ろう（２時間）

・自分の意図を明確にした広告作りをする。

【めあて】　作った広告をグループで交流しよう（１時間）

・タブレットを活用して広告を交流する。

３．実践の報告

第一次では、学習のゴールを明確にした学習計画を示すことにより学習の見通しをもつことができた。学習者は導入として一般的な広告について知っていることを交流し、広告が何のために作られているのか理解することができた。次に６月の下旬に行われる異学年活動の学校行事「たちばなフェスティバル」の広告をタブレット端末で作成することを理解した。学習者が見通しをもって学習を進めることができるよう指導者があらかじめ作っておいた「たちばなフェスティバル」の広告の一部を紹介することを通してゴールを明確にすることができた。「たちばなフェスティバル」の広告を作成するメリットは学習者全員が学校行事として経験するため共通の話題として議論できること、指導者がお祭りに関わる掲示物や準備中及び当日の様子などをデータとして残すことができること、久しぶりに制限のない中でお祭りをできる喜びがありモチベーションを維持できることなどがあげられる。

第二次では、全文を通読した後、学習材「広告を読みくらべよう」について「キャッチコピー」「選んだ写真」「背景の色」「説明の順序」について観点ごとに整理して比較する。各時間ともめあてを端的に示すことを通して学習者が「何をすべきなのか」を理解して学習を進めることができた。学習材の広告①は「家族向けの体温計」であり、広告②は「小さい子どもをもつ母親向けの体温計」であることを踏まえて「背景の色」について作り手の意図を推察しながら理由付ける活動を行った。また、同じ内容の３つの説明について広告①と広告②の順序が違うことに着目し、なぜ順序が違うのか作り手の意図を考えた。なお、本単元では必ず振り返りの時間を設け「何ができたのか」「何がわかったのか」「友達の意見を聞いてどう思ったのか」「もっと知りたいことは何か」などの観点について自由記述で今日の学習をまとめた。国語部では「主体的に学習に取り組む態度」について振り返りを中心に評価することに取り組んでいる。学習者は昨年度も授業の終末に「振り返る」経験を積んでおり主体的に振り返ろうとする態度が見られた。また、単元全体を振り返ることにより付いた力を指導者・学習者で再確認することができた。

第三次では、ＳＫＹＭＥＮＵクラウドの「発表ノート」という機能を活用した。この「発表ノート」は学習者の作品を共有し合ったり、学習者の作品を大きな画面で提示してポイントを説明したりすることに適している。学習者は、「来年度入学してくる新入生向け」もしくは「『たちばなフェスティバル』を知らないおうちの人向け」のどちらの広告を作るか立場を決めることを通して相手意識を明確にもつことができた。「相手意識」をもたせることにより、自ら選んだ情報と相手を関係付けて広告を作ることができた。「写真を選んだ理由」「キャッチコピーの言葉」「背景の色」など作り手の意図と伝えたい相手を関係付けるという目的を明確にした言語活動となった。具体的には、指導者があらかじめ準備した数枚の写真と統一したキャッチコピーの語尾を提示し、「発表ノート」の機能を活用して「広告を作る部品」のデータから自分の意図にあった組み合わせを考えた。学習者は相手を意識した広告を作り「なぜこの写真を選んだのか」「なぜこのキャッチコピーにしたのか」を説明することができた。またタブレット端末を使った交流活動については、友達の作った広告が自分のタブレットに映るため新鮮な気持ちで伝え合うことができた。

タブレットを用いて伝え合う様子

４．成果と課題

成果

・単元学習のゴールを毎時間意識させて取り組みを進めたことにより、学習者の目的意識を持続させることができた。

・ICT 機器（タブレット端末）をうまく活用して学習を進めることを通して、学習者のモチベーションを持続させることができた。

・毎時間の振り返りを次時に指導者が紹介しながら評価することを通して、すべての学習者が主体的に学習を振り返ることができるようになった。

・ＴＴによる指導で取り組むことにより、ICT 機器（タブレット端末）のトラブルに対応することができ学習者の活動を十分確保することができた。

・指導者が学習者に働かせたい思考を明確にして取り組むことにより、適切に評価ができた。

・広告を観点ごとに比較し吟味する活動を通して、情報を整理し関連付けて読む力を育てることができた。

学習者の振り返り　（ノートからの抜粋）

○広告はより多くの人に買ってもらうために作られることがわかりました。（知識・技能）

○広告には意図があることがわかりました。（知識・技能）

○「発表ノート」をうまく使えるようになりました。（知識・技能）

○広告は相手によってキャッチコピー・写真の選び方や使い方、色やレイアウトに工夫がこらされていることがわかりました。（思考・判断・表現）

○４人グループで発表して友達がなぜその写真にしたのかがよくわかりました。（思考・判断・表現）

○これから広告をいろいろ作ってみたいと思いました。（主体的に学習に取り組む態度）

○広告を作ってみんなにわかってほしいことが伝わってうれしかったです。（主体的に学習に取り組む態度）

○広告を作り終わって自分の考えをすべて出すことができました。（主体的に学習に取り組む態度）

課題

指導者としては「思考・判断・表現」に関わる振り返りを学習者に期待していたが少なかったように思う。今後は振り返りを書かせるときの言葉かけについて吟味し、付いた力が明確にわかるような振り返りとなるようにしていきたい。また、指導者が意図をもって「発表ノート」の使い方についてルールを設けて取り組んだが、学習者には自由に作りたいという思いがあり、活動を制限することで学習者の意欲が持続されないことが課題となった。

５．おわりに

私は管理職になってからも様々な形で国語科の単元学習に取り組んできた。今回は４年生の担任と放課後に打ち合わせをしながら学習計画を立てた。ICT 機器の取り扱いについては私よりもはるかに堪能である担任の先生に教わりながらの取り組みとなった。今後、目指すべき国語科学習の在り方について、今までの実践を振り返りながら新たな実践を作り出す充実した時間となりたいへん有意義であった。担任の先生および学習者のみんなにあらためて「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたい。